

令和6年2月20日

加西市議会議長 丸岡弘満 様

清流会・かさいを育む会
幹事長 森元 清蔵

調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

記

1. 調査年月日 令和6年1月17日(水)～19日(金)
2. 視察先 長野県塩尻市、辰野町、岐阜県土岐市
3. 出席者 森元清蔵・森田博美・佐伯欣子・下江一将・深田照明・橋本真由美
4. 視察内容等
 - ◇塩尻市 1月17日(水) 13:30～15:00
(視察項目) コミュニティスクールについて
(視察対応者) 教育総務課 熊井課長
地域連携コーディネーター 池上 氏
(視察内容) 別紙1
 - ◇辰野町 1月18日(木) 10:15～11:45
(視察項目) 移住定住、関係人口及び空き家バンクの取り組みについて
(視察対応者) 辰野町議会 舟橋議長、津谷副議長
まちづくり政策 伊藤課長
(視察内容) 別紙1
 - ◇土岐市 1月19日(金) 10:00～12:00
(視察項目) 小規模特認校の取り組みについて
(視察対応者) 濃南小中学校 本多 校長
土本 副校長
柴山 小学校教頭 石垣 中学校教頭
教育委員会 加藤 教育総務課長 内海 管理主事
(視察内容) 別紙1
5. 所感 (別紙2)
6. 添付資料
 - ① 視察行程表
 - ② 研修資料
 - ③ 写真

塩尻市 (長野県)

【 視察項目 】 コミュニティスクールについて

【 目的 】 コミュニティ・スクールの推進方法と具体的な取組みを学ぶ。

【 内容 】

① 塩尻市が設置しているコミュニティ・スクール概要

- ・2015 (H27) 年度の1年間をかけてCSの設置準備。
- ・両小野学園は1年前倒しでCSスタートする。
- ・当時長野県が推進していた「信州型CS (法律に準拠しない地域学校協働活動の発展型)」ではなく、「法律に基づくCSに」という当時の市長の意向を確認して4月から準備開始。
- ・学校支援ボランティアで組織する「地域教育協議会 (地域学校協働本部)」と熟議を通して学校運営に関与する「学校運営協議会」の2組織を連携させてCSと呼ぶようにした。

② CSにおける課題

- ・塩尻市以外の市町村から異動してくる先生方のほとんどが「(法律に基づく) コミュニティ・スクール」を知らない。(経験してきていない)
- ・校長や教頭として新しく赴任してきた先生が、CSについての知識や経験、意欲がない場合。地域の活動意欲が低下する。

〈課題解決のための取組み〉

- (1) 教員のCS研修 (年度当初や夏休み小中合同で実施)
 - (2) 校長・教頭のCS研修: CS懇談会 (毎月)、CS連絡協議会、CS市民集会、CS実践集の作成 (教頭研修として)
- ### ③ 学校毎にCS活動の温度差やスピード間の差を生み出す要因
- ・学校長のマネジメント能力や意欲の高低
 - (1) 学校運営協議会: 熟議のテーマや内容が充実しない。
結果: つまらないため欠席者が多くなる。
 - (2) 地域学校協働活動: 地域の方々を遠ざけるようになる。
結果: 学校に地域の人が行かなくなる。学校への不満が募り、学校へ対抗される。
 - ・CS会長の志・意欲の違い
高い志、意欲、実行力のある会長に人はついていく。

④ 次世代への継承のために

- ・児童生徒の地域行事等への参画: 「参加」から「参画」へ (お客さんから当事者へ)
CSスタート時より強調して地域の方々にお願いしてきていること。
子供たちが主体的・自主的に取り組めるものを地域が保障することで子供たちも喜んで取り組むことに繋がる。
- ・カフェ丘DUSK (丘中学校CS) の取組み
中学生の放課後の居場所づくり

⑤ カフェ丘スクールDUSK

開催場所: 塩尻市丘中学校

開催時期: 水曜日の放課後 (月2回程度)

目的: 部活動の地域移行が始まる中、新たな選択肢をつくるため。

校内の居場所づくり

校長の活用力と子どもを見る力の向上

内容: 通年スクール・・・イベントの企画運営や地域課題の解決に取り組む。

月替わりスクール・・・学区内で多彩な体験をする。

辰野町（長野県）

【 視察項目 】 移住定住、関係人口及び空き家バンクの取り組みについて

【 目 的 】 加西市でも取り入れられる取組み事例を検討するため

【 内 容 】

① 辰野町の概要

アクセス：車・・・東京都（新宿）から約3時間、愛知県（名古屋）から約3時間
バス・・・東京都（新宿）から約3時間、愛知県（名古屋）から約3時間
電車（特急）・・・東京都（新宿）から約3時間、愛知県（名古屋）から約2時間半

森林面積：14,762.85ha(総面積の約87%が山林)

教育施設：幼稚園・保育園7園、小学校5校、中学校2校、高等学校2校、短期大学1校

生活施設：町営病院1施設、一般診療所13施設、子育て支援センター、温泉・キャンプ場

文化施設：美術館、博物館、総合スポーツ公園

観光：日本一のゲンジボタルの乱舞を見ることができる。(多いときで1日2万匹)

ほたる童謡公園：全体面積9.15ha、全水路延長3245.7m：カワニナを養殖している。

② 移住支援制度を利用した移住者数

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
移住世帯数 合計	33	32	18	41
移住者数 合計	77	94	40	107

移住支援制度利用者数

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
空き家バンク 利用世帯数 合計	30	23	18	22
空き家バンク 利用世帯人数 合計	59	53	34	48
定住促進奨励金 利用世帯数	67	47	30	48
定住促進奨励金 利用世帯人数数	228	169	106	146

③ サポート体制について

○ たつの暮らしサポートプラン（支援制度の概要）

- ・ 空き家バンク制度の成約率は約75%
- ・ 買主・借主との「交渉・契約」を(1)不動産事業者が仲介して行うやり方と(2)所有者が直接行うやり方があり、登録時にどちらかを選択する。

○ たつの暮らしサポート体制

- (1) 「たつの暮らし」：生活に関する専用ウェブサイト
- (2) 「たつのシゴト」：シゴトに関する専用ウェブサイト

④ 移住施策

○ 「人」と「家」をつなぐ。

(1) 休眠不動産見学会

- ・ 辰野駅周辺の商店街を中心に、休眠状態の店舗見学会を奇数月に定期開催。
- ・ 希望者の相談を受け、開業に向けた支援を行っている。
- ・ 実績として居酒屋、シェアオフィス、甘酒屋、ソーシャルバーが各1軒ずつ

リノベーションをして新規オープンしている。

(2)空き家トレジャーハントツアー

- ・空き家に対する関心を高めることを目的としている。
- ・空き家に眠るモノを探し出すイベント
- ・物件オーナーは空き家の不要物品を処分できるメリットがある。

(3)空き家DIY イベント

・「辰野町移住定住促進協議会」と連携し空き家（古民家）をDIY でリフォームするイベントを実施。

- ・移住者は安くリフォームできるほか、移住前に地域との繋がりを作ることができる。
- ・実施実績：令和4年度2カ所実施（6日間） 延べ参加者数135名

○「人」と「人」をつなぐ。

(4)移住者交流会

- ・移住者と地域住民、移住者同士の親睦を深めるために開催。
- ・移住者間のネットワークが生まれている。

(5)みんなの農園交流会

- ・都会には無い畑づくりを体験してもらうことで地方の良さを再認識してもらえる。
- ・年間を通じて無農薬・無肥料の自然農法での野菜栽培を実施。

(6)オーダーメイド型移住案内

- ・決まった案内ルートは設定せず、移住検討者の具体的な要望を聞き取り、人、仕事、住まいに繋げる移住案内。
- ・先輩移住者や地域のキーパーソンに積極的に繋げ、移住後のギャップ解消や地域への溶け込みを支援している。

⑤ 移住モデル地区（川島地区）

人口は約650人。伊那谷の北に位置し、経ヶ岳を水源とする横川川上流に広がる大自然が魅了の集落である。東西に開けた地形により、太陽が一日中里山の緑を照らす。近年、辰野町は「田舎暮らしの本」において住みたい田舎ランキングで上位を獲得するなど都会から注目が集まっており、中でも川島地区は人気No.1の移住先となっている。

⑥ 関係人口創出事業

○関係人口に取り組む目的

(1)地域活性化プレイヤーの獲得

地域の余白を活用しながら能動的に地域を面白くしてくれる地域プレイヤーを増やす。

(2)地域課題の解決

辰野町内の人材では解決できない課題に取り組んでくれる人材を獲得し、地域課題を解決する。

(3)地域経済の促進

地域内宿泊施設や飲食店への経済効果が期待できる。

- ・入り口：関わりしろ⇒関係人口⇒出口：共創人口の流れを整備している。
地域課題=関わりしろが関係人口の創出に繋がる。

土岐市（岐阜県）

【 視察項目 】 小規模特認校の取り組みについて

【 目 的 】 小・中学校の再編に向けて、学校選択制について学ぶ

【 内 容 】

① 土岐市立濃南小学校小規模特認校 概要

○趣旨及び目的

教育委員会は、自然環境に恵まれた小規模特認校で、少人数の学習指導による確かな学力の定着と、心身の健康増進を目指すとともに、明るく伸び伸びとした児童を育成する特色ある教育活動を展開している。

この小規模特認校での教育を希望する保護者に対して、一定の条件を付して通学区域外からの通学を認める。

○基本的な考え方

上記の趣旨及び目的に従い、小規模校の有する特色ある活動の中で児童に教育を受けさせたいという場合に限定されるものである。

しかがって、保護者が小規模特認校に児童の転入学を希望する場合は、別に定める条件により、通学状況及び生活指導等について、十分に教育的配慮をした上で認めるものである。

○転入学の条件

・居住地…就学を希望する児童が現に市内に在住していること、又は転入学をする期日までに市内に転入す

る見込みがあること。

・通学…保護者が、自らの負担と責任において、児童を通学させること。

○卒業後の進路

小規模特認校に就学を認められた児童が卒業後に入学する中学校は、原則として居住地の通学区域にある中学校とする。小規模特認校制度を利用した児童が、在学している小学校の通学区域として定められている中学校への入学を希望するときは、教育委員会に指定学校の変更を申し立てることができる。

○転入学の手続き

・申し込み方法

保護者は、教育委員会窓口において校区外就学許可申請書を受け取り、必要事項を記し、小規模特認校の校長を通じて教育委員会に提出する。

・転入学の決定

面談：教育委員会及び学校が、保護者及び児童と面談。保護者承諾書の提出。

決定：教育委員会から保護者へ通知

②一貫教育取組の経緯

平成 27 年 4 月 濃南小学校開校（鶴里小・曾木小合併）

・濃南中学校の敷地を利用して新校舎

・従来通り小・中学校に校長配置

・小・中学校連携して教育活動の模索（児童生徒の活動、教科指導等）

令和元年 4 月 特認校制度スタート

・新 1 年生 1 名受け入れ

令和 2 年 4 月 併設型小学校・中学校としてスタート

・小・中学校兼務校長とする。

・土岐市学校管理規則に明記

令和 3 年 4 月 一貫教育の推進を加速する人事配置、環境整備

・校長 1 名 副校長 1 名 教頭 2 名（小・中各 1 名）

- ・職員室の一元化
- ・小学校3年生以上の教科担任制へ

令和4年4月 一貫教育全体像の構築

- ・職員会、各種会議、一人職（事務）の小・中一元化への取り組み
- ・小学校1年生から教科担任制（9教科教員免許状の完全配置）

令和5年4月 小規模・少人数と一貫教育のマッチング取組み

- ・中学校におけるホームベースの設置
- ・空き教室を活用した教科教室
- ・小学校4-6年、中学校のランチルーム

③ 一貫教育の良いところ

- 同学年集団から異学年の交流へ
- 学級担任から教科担任・チーム担任へ
- 二つの職員室（小・中）別から一つの職員室へ
- 一人で負う業務から分担してする業務方法へ

④ 取組みについて ～小さな学校の大きな挑戦～

(1) 「小学校1年生からの教科担任制」

- ・発達段階を考慮し、低・中学年は担任が受け持つ時間を多くしている。
- ・高学年から中学生までは、全ての教科で専門の教員による教科担任制を実施している。

結果：全国学力学習状況調査では好結果が見られる。

土佐市芸術祭では多くの入賞作品があった。

(2) 「教科教室」

・中学生35人を一つの教室（ホームベース）にてホームルームを作っている。授業は空き教室（余剰教室）

を利用して授業はそこへ自ら出向き、学ぶ。

- ・教科の特色を生かした学習環境で学ぶ。
- ・朝、帰りの会はチーム担任で全校一緒に行く。

結果：自分で学ぼうという意識をもって学習に望め、質のある教科授業が期待できる。

(3) 「小規模特認校」

- ・5年生までで合計9名の特認校児童が在籍している。（小学校全児童の10.4%）

結果：この制度のおかげで、4・5年生の複式学級が解消できている。

(4) 「チーム担任制」

- ・濃南小・中学校に勤める職員全員で児童生徒にかかわり、育てることを大切にしている。

小1～3	小4～6	中1～3
各チームリーダー1名		

〈役割例〉

- ・朝の会等、児童生徒のチームでの活動の計画実施
- ・緊急事案の連絡、対応（複数で対応）
- ・生徒指導上案件の集約→チームリーダー会で情報共有

結果：悩み事、困り事があつたら、話しやすい先生といつでも相談できる。

生活集団の適正規模、良好な人間関係の醸成や切磋琢磨ができる。

他の先生に任せる時間を作り出せ、教職員の働き方改革にも繋がっている。

所感 (別紙2)

○塩尻市「コミュニティスクール」について

森元清蔵

平成28年に市内の全小学校9校、中学校5校に学校運営協議会を設置して、コミュニティスクールに取り組まれている。学校運営協議会、地域教育協議会において、どのような子どもに育てたいのかを学校と地域がよく議論されている。中学校区毎に1人の学校支援コーディネーターが配置されているようで、ここがしっかり議論をまとめ、学校と地域のつなぎ役になっている。こうしたコーディネーターの配置はぜひ必要である。学校支援ボランティアについては、志のある人が集まって、やれる人がやれることをしているということでした。こうした支援活動の広がりも学ぶところがありました。

○辰野町「移住定住、関係人口及び空き家バンク事業の取り組み」について

定住のためには、人が人をよぶと考えると、人と人をつなぐ施策がなされている。移住者と地域住民、移住者同士の親睦を深めるための交流会を開催して、地域に溶け込む支援をしたり、移住者間のネットワークを生みだしている。移住案内も移住検討者の具体的な要望を聞き、人、仕事、住まいにつなげる案内をして、先輩移住者やキーパーソンに積極的につなげ、移住後のギャップ解消や地域への溶け込み支援をしている。

また、人と家をつなぐ施策として、「空き家トレジャーハントツアー」をして、空き家に対する関心を高め、空き家に眠るモノ探しや、不要品の引き取り処分をしている。また、空き家DIY(リフォーム)イベントをして、格安のリフォームや地域とのつながりをつくっている。移住体験として、ゲストハウスを10戸以上用意をして、各戸1日1組を受け入れ、その家の住民と生活したり、ゲストハウス同士の交流をして地域を知ってもらっている。

移住検討者に寄り添って、親身になって取り組まれている姿勢と取り組みは、大いに参考にしていきたい。

○土岐市「小規模特認校の取組に」について

濃南小・中学校の現地で説明を受けました。ここは、小中一貫校であり、小規模特認校です。5年生まで9名の特認校児童が在籍、小学校全児童(86名)の10.4%。「小さい、少ないはマイナスじゃない。小規模校だからこそそのメリットを生かせればいい。」との校長先生の言葉どおり、児童、先生、学校に活気がありました。

小学校1年生から教科担任制にして、教科指導に精通した先生が教えている。全国学力学習調査でも好結果がみられるとのこと。中学生35人を1つの教室(ホームベース)にてホームルームをして、授業ごとに教科教室に移動して学ぶ意欲を育てている。担任もチーム担任制で、小1~3,小4~6,中1~3毎に複数の先生で担任をし、その日の主任先生が担当するので、多くの職員で生徒を見守っていけるし、教職員の働き方改革にもつながっている。

少人数の学校で、きめ細かな指導を受け、豊かな自然環境の中で学校生活を送らせたいという保護者の願いを大切にされた小規模特認校制度も、今後、加西市において小学校の統廃合をしていく中で、考えて行く必要があると思う。

①長野県塩尻市『コミュニティスクール(学校運営協議会制度)について』CSと表記する

2015年当時、長野県は法律に準拠しない地域学校協働の発展型である「信州型CS」の推進していたが、塩尻市では、法律に基づくCSに取り組んでいる。学校支援ボランティアで組織する「地域教育協議会」(地域学校協働本部)と「熟議」を通して学校運営に関与する「学校運営協議会」の2組織を連携させてCSと呼んでいる。6名の学校支援コーディネーターが平時から支援し、いつも子どもがど真ん中、目指す子ども像の実現に向け取り組まれている。

教員の人事異動で市外から着任する先生方はCSの理解がなく、毎年繰り返してCS研修、CS懇談会、CS連絡協議会、CS市民集会と実践集の発行に取り組んで、学校づくりと地域づくりに大きな成果を作り出している。特に、校長の高い志、意欲、実行力が問われ、そのマネジメント能力や意欲の高低が学校運営に影響し、学校への不満が募ると手厳しい説明もなされた。

保小中一貫教育を目指している学園構想、今年度から開始されている「小規模特認校」は市広報に表紙を含めて7ページに特集記事。そして、少子高齢化に伴う児童生徒数の激減による学校閉鎖を回避するための小中一貫校を作りながらCSを展開する熱意は凄しい、学ばなければならない。数字合わせの統廃合だけでは教育の本質を見誤る心配もある。

②長野県辰野町『移住定住、関係人口及び空き家バンク事業の取り組みについて』

総面積の87%が山林で日本の真ん中にある町、日本一のゲンジボタルの乱舞が見られる町、たつの暮らしをPRするが、町内の行きたい所、訪ねたい所をいろいろな媒体で紹介しても決して強く移住を求めないとのこと。しかも、移住定住の各種制度や施策は充実、お試し移住も人気ある。昨年だけでも100名超えの若者世代が移住。モデル地区にしている川島地区は人気NO1の移住先。

とにかくPRが上手でパンフ等の資料もたくさんあり、たつの暮らし相談所のパンフには移住の写真入りで、辰野町の良いところ、マイナス点、移住希望者への一言、大切にしていることが紹介されたユニークなもの。辰野町が目指している「人が人を呼び込む状況」が実現されていると思う。各施策の内容も工夫点参考になった。

③岐阜県土岐市『小規模特認校の取り組みについて』

小さな学校の大きな挑戦、小1年生から教科担任制へ、自分の学びは自らの意思と足で動く教科教室の開設、学校と地域を大好きに思う小規模特認校への挑戦、多くの教職員で児童生徒を見守るチーム担任制と、小さな学校の大きな挑戦と校長先生から説明を受けたが感動する内容である。小規模、そして少人数は決してマイナスではないとの前置きもあった。その状況に一貫教育をマッチングさせて取り組みを実践されている。

2015年に小学校2校を、中学校の敷地に統合新校舎を開校。2019年に小規模特認校として新1年生1名受け入れ、2020年には併設型小学校・中学校としてスタート、一貫教育の推進を加速する人事配置と環境整備をして、2022年に一貫教育全体像を構築されている。関係者、関係機関、教育現場がその気になれば、そして工夫をすれば、地域に合わせた独自の教育が実現することを学ぶ貴重な視察となった。感謝します。

【長野県塩尻市】

塩尻市が目指すコミュニティ・スクール(CS)には大きな熱意を感じた。2011年度に小中一貫教育をスタート。その後、当時の校長先生が地域連携コーディネーターとして関わられ、地域教育協議会(学校支援ボランティア)と学校運営協議会を連携し、市の計画のもと「地域とともにある学校」に取り組まれている。

課題についての学習、熟考、解決に向けどう動いたら良いかまで明確にし、地域と学校が共に実践。また、どのような学校・地域・子どもにしたいのか地域と学校が共有し同じ方向に様々な活動をされている。各地域や学校によっては、温度差や速度差があるものの工夫や努力をされていることは感じ取ることができる。

印象に残った具体例として、ある中学校が居場所づくりとして、毎週水曜日の休み時間に「カフェ」をオープンし、生徒と地域の皆さんが関わりを広げたり深める時間を作られたこと。一日30名以上の生徒たちが訪れること等見習いたい活動である。

加西市でも取り入れるべきことの一つは、地域連携コーディネーターの確保。また、塩尻市が掲げられているように、「子育て世代に選ばれる地域」「住みよい持続可能な地域」「シニアが生き生き活躍できる地域」を創造するコミュニティ・スクールであることだと確信した。

【長野県辰野町】

総面積の約87%が山林という環境の中で、「移住定住、関係人口及び空き家バンク事業」について様々な取組みをされている辰野町。唯一 JR 辰野駅があることや人口約18,000人のコンパクトな町を活かしていると感じた。現在、転入者100名の実績があるが、取組みとして、特に移住者モデル地区である川島地区は、幅広で東西に開けた地形(地図で見ると細長い谷)で都会からの移住先No.1となっている。また、辰野町独自でされている、全員が作り手になれる「空き家DIYイベント」がある。行政として、移住して来られた方々にはとても親切、丁寧な対応をされており、移住して来られた方々に協力していただく、いわゆる人が人を呼び込む施策をされている。

加西市においても、地域と多様に関わる人々をもっと増やすことであるが、地域の受け入れがしっかりできる体制をつくる必要があるのではないかと考える。

【岐阜県土岐市】「小規模特認校の取組みについて」

土岐市立濃南小学校・中学校の現地視察を行った。特認校制度のスタートは、2019年。一貫教育を推進していかれるにあたり、具体的に①小学校1年生から「教科担任制」への挑戦②自らの意思と足で動く「教科教室」への挑戦③多くの教職員で児童生徒を見守る「チーム担任制」への挑戦等を行ってこられた。現在、地区外から9名が登校。

小規模特認校の長所は、①複式学級が解消された。②不登校の生徒への解消の一つになっている。③誰もが地域を大好きに思う学校となる。最大の課題は、長年培われた、小学校文化VS中学校文化の系統をどう図るかということである。しかし、ここまで取り組むことができた理由として、説明いただいた校長先生から、教師免許に対して、岐阜県の考え方は小・中の免許をなるべく保有するよう進めており、また、教科担任制をとる中で授業の空コマができるので教師の働き方改革になるとのことだった。土岐市は少子化が始まってから、数年以上にわたり小規模特認校に対して諦められずに取組まれ、実績を出してこられた。加西市においては、小・中学校の統廃合が始まる中、小規模特認校は必須ではないか。また、教育への姿勢は土岐市に見習うべきではないかと考える。

【長野県塩尻市】コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

『コミュニティ・スクールには決まった形はなく、子どもを中心に据え、みんなで創るもの』という地域連携コーディネーターの方の言葉が印象に残った。コミュニティ・スクールは学校長の影響（マネジメント能力の差）が大きいことや地域でも理解をされないことがあると課題について説明を受けた。その中で重要な役割を果たしているが中学校区ごとに配置され、学校・保護者・地域と調整を図る学校支援コーディネーターの存在であると感じた。そこに地域連携コーディネーターも加わり、横で情報交換を行っている。

加西市のコミュニティ・スクールにも学校・保護者・地域に対して客観的な立場から関われるコーディネーターを導入することで、より良い話し合いの場を設けることやスムーズに調整が図られるようになって感じました。

【長野県辰野町】移住定住、関係人口及び空き家バンク事業の取り組みについて

辰野町の視察を通して総じて重要だと感じたことは、担当課（者）が移住者の基本的なニーズを把握されていることである。お試し滞在においては超短期型から長期型までのステップに分けられた受け入れ体制を検討、空き家は戸建ての賃貸物件を増やすこと、移住相談では積極的に「来てください！」とは伝えずに移住希望者の意見を優先されることなど、細かいところまで意識されていることが伝わった。加西市でも段階に応じた補助・支援が行われていると考えているため、さらなる成果が見込まれる。

辰野町では“人が人を呼び込む”と考えておられ、人を紹介しながら移住促進に取り組まれている。これから移住を検討される方々に「加西市にきたい、関わりたい、住みたい」と感じてもらえる分かりやすい理由を用意し、PRに取り組む必要があると感じた。現在、目玉となっている“かさ育”がその理由に値するのも検討していく必要がある。

【岐阜県土岐市】小規模特認校の取り組みについて

濃南小学校・中学校では『小規模を最大に活かす』様々な挑戦が行われていた。小学校1年生から専門の教員による授業を受けれることや多くの教職員で児童生徒を見守る制度を作られており、その取り組みに教職員の熱意と愛情を感じた。現在は特認校児童が9名あり、特色ある校風の魅力が市内にも伝わっていることが分かる。また、不登校になる生徒が減っているなど成果が現われている。

校内を案内していただき、授業の様子を見ることができた。少人数であるため、より一人ひとりに発言や役割が当たる機会があり、様々な経験を積むことができると感じた。

加西市で進められる小中学校再編においても少人数の学校に通わせたい保護者の声が届いている。その方法として小規模特認校も視野にいれて検討すべきだと感じた。

塩尻市 コミュニティスクール

塩尻市ではコミュニティスクールが、2015年に一年間の準備期間を経て、設置された。そのコミュニティスクールは、法律に基づくCSにという形で準備に取り掛かれた。学校支援ボランティアで組織する地域教育協議会と熟議を通して学校運営に関与する学校運営協議会の組織を連携させてCSと呼ばれるようになった。

子どもを中核に据え、熟議をし協同して参画していく事が基本となっているため、地域の人達の協力がとても大事で、出来る人が、出来る事を、出来る時に！をモットーにされている。コミュニティにより地域に愛着を感じてくれている子ども達がいて、地域の人が子どもの意欲を潰さないように動いてくれている、参加ではなく参画してくれている。不登校についても、それが熟議の議題としてあがり、地域の方々が協力し、居場所作りのために、公民館が空いてるなら地域の方が見といてあげようという流れになる。

地域で学校も含めて子どもを中心に考えてくれている事が本当にすごいと思った。それはCSが一つの道具となり、その道具をどう活用し、地域づくりや学校づくりをするのかという事が重要である証拠。地域の力がとても必要だが、CSには決まった形がないため、とにかく子どもを中心に据え、みんなで創るもの。子どもを思う温かい心、そして思いを実現する計画性と実行力。思いを共有できる仲間繋がり、そして話し合いが大切。

子ども達が主体的に取り組めるものを地域が保証してあげれば、子ども達は少しずつ変わり、楽しんでくれ、取り組んでくれるようになる。加西市では統合に向け動いていくが、地域を飛び越えてでも、地域とのつながりがもてるコミュニティスクールの存在は大きな魅力であり、加西市としても地域の力をお借りしていく事を望みます。学校再編と言えども地域の協力を得ないと過疎化に拍車をかけると思うので、加西市もCSの充実を心から思う。

辰野町 移住定住、空き家バンク

辰野町は、人口推移にしても減少している状態である。しかしその率に関しては、自然減が理由で高齢者の死亡が年々減少傾向にあれど、転入に関しては移住制度により入って来てくれた人は100人程度いる。移住や定住に関して空き家バンクを利用し、定住に繋がっている例が多く、移住定住や空き家バンクの利用に関しては、地域おこし協力隊がとても重要である。移住者が地域で馴染めるようにイベントや交流会などもされる事で、移住後のギャップ解消や、地域の溶け込み支援に努めている。

移住のモデル地区もあり、移住者がまた更なる移住したい人を呼んできてくれることもあり、キーマンになる人がいる事で、町をアピールというよりは、町にいるフックにして習いたい人をつくる仕掛けをしている。補助金を充実させるよりも中身で勝負している。補助金に関しては、特徴的なのが仲介手数料の補助金があり、民間が仲介しても大きな損にならない様に、一定の仲介手数料が入る様に、移住者側に支払う際の時の補助金を出している。

人気の場所では戸建てが不足している程の人気である。

移住定住してもらうには、今増えつつある空き家を利用してもらいながら、貸す側、借りる側にも支援策を作る事で大きく結果が変わる。加西市でも空き家バンクがあるが、ここまでの手厚さはまだ検討の余地があると思うので、しっかりと習っていける部分もあり、それと共に地域の受け入れ態勢もとても必要と感じる。

岐阜県土岐市 小規模特認校、小中一貫校

自然環境に恵まれた小規模特認校で少人数、また小中一貫校で、小学校に関しては専科の学習指導により学力も上がり、中学校は中一から中三生が、ひとつになりホームベースでチーム担任制先生で交代制ですのため先生の負担軽減にもなる。

小学生は中学生を憧れとし、中学生は、小学生の面倒を見る、縦割りが生み出すものは、とても大切に貴重だと思う。交友関係の固定化はデメリットではあるが、メリットの方が多く、学校を選択できる事がとてもいい取り組みだと思う。

違うことが悪いわけではない。違うことを理解し合えることがとても大切という部分が大きな魅力と感じた。小中全員での活動や全職員で育てる仕組みや、地域と一体となった活動により子ども達も大きく育っているのだと思う。個性を伸ばし、地域に合わせた独自の教育に取り組まれていることが大きな魅力だった。加西市では小学校の統合アンケートの中には少人数ではあるが、小規模の学校を望まれている方もいたので、いろんな教育がある中で、選択肢として検討して欲しい。

【長野県塩尻市】 コミュニティスクール・学校運営協議会制度

コミュニティスクールは地域の区長・民生委員・保護者代表・教職員代表などで組織された学校運営協議会が設置されている学校で、学校とその活動を支援する地域の人々が集まり、定期的にその事業や活動内容を協議して、子供たちが地域を誇りに思い、これからの社会を生き抜く力を育成向上させる活動をすすめていく場である。

その活動として塩尻市立丘中学校でのカフェの取り組みを紹介して頂いた。この丘中では令和4年度、在校生が454名のうち不登校生が52名10.8%もしめていた。その理由は他者とのコミュニケーションが苦手、学習についていけないなどが主であったが、学校運営協議会でそれを何とかしたいと、週に一度、放課後に地域の人々と生徒と一緒に気楽に集まれる「カフェ丘」を作って運営をはじめ、生徒達も自由にゲームや会話を楽しむようになり、令和5年度にはこのふれあい活動で自信が回復し、前向きになる生徒が増え、不登校生徒も減りつつある。

しかし、現在、このコミュニティスクールは市内小学校9校、中学校5校に広がっているが、その活動のスピード感は各校や各地域により違う点があるのは事実で、その学校の校長・教頭先生などの積極性や思いが弱いところは、地域の方々の協力を得にくいという現実があるとのことであった。

やはり、人と人との信頼関係が一番、大事であり、中心となる活動コーディネーターが学校と地域をうまく結ぶ役割を担い活性化を図られている。子供達が郷土に誇りを持ちより愛着を持った人になってくれるよう、しっかりと活動していきたいといわれるコーディネーター代表の言葉はとても崇高で重みのある言葉であった。

加西市でもコミュニティスクールが令和5年度に発足し、地域の方も協力して活動されているが、その方々の思いを次世代につないでいくことが大切で継続的な運営ができるように、加西市としてもしっかりと後継者育成に取り組んで頂きたい。

【長野県辰野町】 移住定住 空き家バンク

移住定住策として重要な点は町のイメージづくりと広報であると、辰野町ではホームページで東日本有数のホテルが2万匹も乱舞する自然豊かな町ということ「輝く光と蛍の町」という言葉でPRされている。そして、移住者受入れモデル地区として、町の中心部から10km程度離れた谷あいの川島地区を指定し、ゲストハウスを利用した短期滞在体験会や地域の方々との交流会を随時開催されている。この川島地区は昔のよき田園風景を残している細長い集落で、コンビニも食料品店もなく買い物には不便だが、人々のふれあう茅葺きの館や小学校があり、地域の人々が寄り添って子供を育てていく強い思いと豊かな自然にあふれ、都会暮らしと違う静かな環境と人のぬくもりを感じて、移住者が多く来られている。

その移住者のひとは地区最上流部の山からのきれいな水を使って無農薬の野菜を作り、自分のカフェレストランを運営されている。他の方は無農薬でお米を栽培し、自分で販路を確立されて方もいる。そして、その移住者を地域の人が農地や農機具などを提供して、あたたかく支える仕組みも出来ている。

この移住定住促進をすすめているのは、行政、不動産業者、地元の方々による移住定住促進協議会が主体となっていて、東京などの大都市圏でのPRイベントの開催や、1日移住体験、DIY体験、1年間お試し定住体験など、辰野町の環境を実際に体験し理解してもらうよう取り組まれている。そして移住を考えている方にここに絶対住んでほしいという無理強いはないようにしているとのことであった。なぜ、強くアピールしないのかと尋ねると、本人がしっかりと町の魅力を理解し納得してもらうことが確実な移住につながり、変にゴリ押しするとうまくいかないことが多いとのことだった。

加西市の山間地区より、もっと田舎である川島地区への移住が進んでいる現状を聞いて、地区の方の受け入れ意識の強さと、行政として相手の農業をやりたい、子育てを楽しみたいなどの希望をしっかりとサポートする体制づくりが重要であると改めて感じた。加西市も子育て施策が充

実し、自然がある過ごしやすいまちという PR をより発信し、移住者・定住者を増やしていきたい。

【岐阜県土岐市】 小規模特認校の取り組み

平成 27 年、土岐市南部のどちらも小規模校である児童数 52 人の鶴里小学校と 35 人の曾木小学校の校舎耐震改修工事に経費をかけるより統合新築が優先され、濃南小学校として、濃南中学校の校庭に新築され、小中一貫校としての運営が始まった。

そして、平成 31 年から濃南小学校は小規模特認校として、市外・地区外からも児童を受け入れ、この制度の最初の生徒は現在 5 年生になっている。この特認校には 1 年生から入学するのが原則で地区外の児童は保護者の送迎が必須であるが、児童も保護者もみんな仲良くのびのびと勉強できるという小規模校の特性や良いところを理解されて、各学年 20 名以下の内、毎年 2 名以上の地区外の児童の入学が続いている。

また、小中一貫校として中学生と小学生と一緒に掃除をしたり、運動する活動項目もあり、小学生は中学生は何でも出来るとあこがれを持ったり、逆に中学生は小さな小学生を慈しみ、仲良くする気持ちの向上などより良い関係が出来ている。先生方も音楽や英語など中学校専科の先生方が小学校で英語や音楽を教えることで、普通の小学校のクラス担任制より高いレベルの授業ができて学力も感性も伸びている。

今回の視察では学校・教育委員会などから 10 名以上の方に応対頂き、校内を丁寧に案内・説明して頂いて、子供たちの授業風景、木材を主に使ったあたたかい建築様式、まわりの豊かな自然環境を確認させて頂いた。見学中も校長先生はじめ、副校長、教務主任の先生方の子供たちにかける温かいまなざしや熱意を感じ、子供たちひとりひとりに向き合い、育て応援していく体制がしっかりできている小規模校ならではの暖かい雰囲気が十分感じられた。

加西市も小学校の統合が進められていく段階にあるが、小規模校の良い点はしっかりと検証し、統合ありきとしても地区外・市外からも通える特認校制度もひとつの選択肢として、地域の思いに向き合う議論が必要と改めて感じた。

清流会・かさいを育む会 行政視察 行程表

1月17日(水)

07:20 発 加西市役所：議員駐車場集合
08:26 発 姫路駅（のぞみ82）
09:47 着 名古屋駅
10:00 発 名古屋駅（しなの7）
11:54 着 塩尻駅

（昼食）

※タクシーにて移動

13:30～15:00 塩尻市視察

「コミュニティスクール（学校運営協議会制度）について」

※タクシーにて移動

宿泊 ホテル中村屋 TEL0263-52-1300

※駅より徒歩3分程度

1月18日(木)

09:20 ホテル出発
09:34 発 塩尻駅（JR中央本線支線辰野行）
09:55 着 辰野駅

※タクシーにて移動

10:15～11:45 辰野町視察

「移住定住、関係人口及び空き家バンク事業の取組みについて」

（昼食）

※タクシーにて移動

13:44 発 辰野駅（JR中央本線支線岡谷行）
13:55 着 岡谷駅（乗換）
13:59 発 岡谷駅（JR中央本線長野行）
14:09 着 塩尻駅（乗換）

15 : 03 発 塩尻駅 (しなの 16)
16 : 37 着 多治見駅

宿泊 くれたけイン多治見駅前 TEL0572-21-5411
※駅より徒歩1分程度

1月19日(金)

09 : 00 ホテル出発
09 : 07 発 多治見駅 (JR 中央本線 中津川行)
09 : 13 着 土岐市駅

※土岐市事務局様迎え

10 : 00~12 : 00 土岐市「小規模特認校の取組みについて」
※土岐市立濃南小・中学校の現地にて視察

※土岐市事務局様送り

13 : 51 発 土岐市駅 (JR 中央本線快速名古屋行)
14 : 34 着 名古屋駅
15 : 03 発 名古屋駅 (ひかり 513)
16 : 33 着 姫路駅

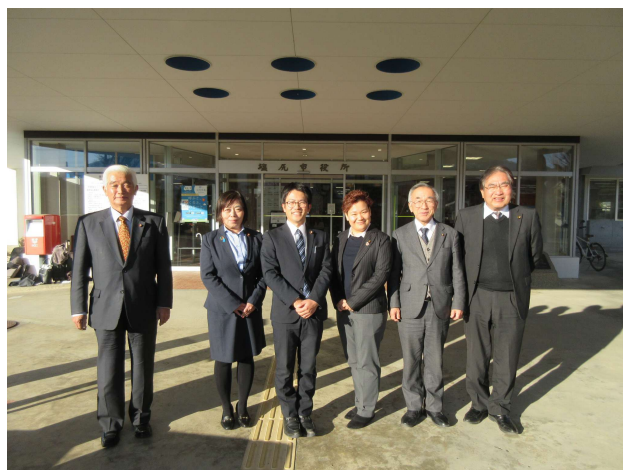
17 : 30 着 加西市役所

【添付資料】

①視察行程表

②研修資料

③写真



塩尻市



辰野町



土岐市